



# 日本ルイ・アームストロング協会 ワンダフルワールド通信 No.89

日本ルイ・アームストロング協会（ワンダフルワールド・ジャズ・ファウンデーション=WJF）2016年4月発行  
〒279-0011 浦安市美浜 4-7-15 WJF 事務局 TEL:047-351-4464 FAX:047-355-1004 Email: saints@js9.so-net.ne.jp  
ホームページ <http://members3.jcom.home.ne.jp/wjf/>  
発行人 代表・外山喜雄 編集長・山口義憲 編集・小泉良夫

1926.2.26 at OKey Studio in Chicago recorded by Louis Armstrong and his Hot Five

## WJF特別例会『春のシュビドゥバ』—スキヤット誕生 90 周年

### ジャズ界の“2.26 事件”は「ヒービー・ジーブズ」の録音中に勃発した！

ルイ・アームストロングによって初のスキヤット・ボーカルが誕生したのは、まさに“ジャズ界の2.26事件”だった。1926年2月26日朝、シカゴのOKeyレコード吹き込みスタジオでサッチモ率いるホット・ファイブが「ヒービー・ジーブズ」を録音中、誤って歌詞カードを落とし、とっさに♪シュビドゥバ…と意味不明の言葉を発して、その場を繕った。これが思わぬ大ヒットとなって、アメリカ中にスキヤット・ブームを巻き起こし、世界中に飛び火していく。それから今年に記念すべき90周年。日本ルイ・アームストロング協会(WJF)では、さっそくこの“歴史的な事件”を第58回特別例会として掘り起こしていった。2月27日(土)、銀座十字屋ホールで、同ホールと共催の『春のシュビドゥバ』、会場は満席130人のサッチモファンで埋め尽くされたホットなイベントとなった。

(小泉良夫)



セインツとゲストのみなさん、全員集合のフィナーレ「聖者の行進」は、お客様も多数、恵子さんともども傘を手に手にセカンドラインに加わった(写真上)。同左はゲスト出演の丸山繁雄、細野よしひこ、ギラ・ジルカ、中村千恵子のみなさん(左から)で、最高の盛り上がりを見せた。

2016.2.27 at GINZA 銀座十字屋ホール 異色のスキヤット名手たちが次々と熱唱  
ニューオリンズ「サッチモ・サマーフェストでも大うけした“その歴史的瞬間”をデキシーセインツが再現

エラ・フィッツジェラルド、サッチモとディジー・ガレスピー、ビング・クロスビー、ボズウェル・シスターズ…

# “スキヤットの元祖”サッチモが築いた歴史的シーンが次々と 超アンティークな蓄音機で「ヒービー・ジービーズ」の貴重なオリジナルSP盤を聴く

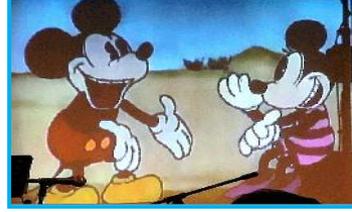
## あのベティーちゃんやミッキー・マウス… アニメの主要役達も♪シュビドゥバ…と歌う

午後3時、WJF理事でこの会報の編集長、山口義憲さんの司会で開演。さっそく外山喜雄とデキシーセインツによるスキヤット演奏の第1弾『ジーパス・クリーパス』で第1部の幕を開けた。次いでスキヤットが誕生して以来、瞬く間に全米に広がっていった模様を外山さん秘蔵のジャズ映像コレクションからピックアップしてプロジェクターで紹介されていく。エラ・フィッツジェ

ラルド、サッチモとディジー・ガレスピー、ビング・クロスビー、ボズウェル・シスターズ、それにベティーちゃんやミッキー・マウス、クロウ/ダンボ、ジャングル・ブックのスキヤット・アニメが続いた(写真右)。そうなんです、スキヤット誕生の3年後、世界中がスキヤットブーム…トーキーになりたてのミッキー・マウスやベティーちゃんまでスキヤットしていたんです！

さらにこの日のハイライトの1つ、このサッチモの「ヒービー・ジービーズ」スキヤットが録音されている原盤、OKeyレコードそのものの78回転オリジナルSP盤(8300-A)と、1928年の同レコード「ウエストエンド・ブルース」を、1904年米ビクター社製ホーン(ラッパ型)蓄音機Ⅲ(3号機)で再生する試み。これら超貴重なSP盤はWJF会員で本邦有数のSP盤コレクター、山本俊兵さん所蔵。また、100年を超すこのアンティークな蓄音機は、やはりWJF会員、佐藤修さん(ポニーキャニオン社長や日本レコード協会会長など要職を歴任)の所蔵。

この蓄音機の操作を担当する外山さんは開場前、これにかけてみて「大丈夫かなあ、ちゃんと聞こえるのかなあ」な



蓄音機のサウンドに聴き入る外山さん(上)。下は佐藤さん(左)と山本さん

あんで心配していたが実演の際、会場は水を打ったようにシーンと静まりかえった。蓄音機からソフトなサウンドが流れ始めると、皆さんこの歴史的瞬間を聴き逃すまいと神妙に耳を傾ける。山本、佐藤両氏ともステージにのぼり、これらの取得秘話を語ってくれた。

山本さんらコレクターが所有しているこれらホット・ファイブの「SP復刻盤シリーズ」が、この日の特別ゲストで監修も引き受けてくださった瀬川昌久さん(文化庁長官賞受賞、ジャズ評論家)の監修で、ホット・ファイブ初録音90周年記念としてルイ・アームストロング

大特集4枚組CDとなって発売中(銀座4丁目の山野楽器店にて)でもある。

SP盤「ヒービー・ジービーズ」の後は、セインツによる当時のホット・ファイブ“歴史的シーン”「ヒービー・ジービーズ」の再現。もうご紹介するまでもないが、この日のセインツのメンバーは、外山喜雄(tp,vo)・恵子(p,bj)、粉川忠範(tb)、広津誠(cl,ts)、藤崎羊一(b)、サバオ渡辺(ds)の皆さん。



瀬川昌久さん(右)と司会の山口義憲さん

## 監修&特別ゲストの瀬川昌久さんは当時2歳 スキヤット誕生の瞬間を解説、セインツが再現

瀬川さんが、山口さんのインタビューに答えて、このシーンを解説してくれた。山口さんによると、瀬川さんは、こ

の録音の2年前の1924年(大正12年)生まれで、当時2歳。ご両親とともにロンドン在住で、当時のヒット・ミュージカル「サニー」の主題歌をキングズ・イングリッシュで口ずさんでいたとか。なんとと言っても、瀬川さん抜きでサッチモは語れません。さて、どんなシーンが展開されるか…。

歌詞カードを手にご機嫌で「ヒービー・ジーブズ」を歌う外山さん、突然、歌詞カードをひらひらと落としてしまう。

慌てて意味不明の歌詞、スキヤットの初披露に入る(写真右)。粉川さんが拾いあげたものの「返さないぞオ」のジェスチャー。大慌てのサッチモ、いや外山さん。爆笑を誘う。以前、このシーンを本場ニューオリ



←ひらひらと舞う譜面

ンズの「サッチモ・サマーフェスト」でセインツが披露したことがあり、これがまた大受け。会場にいた米コロムビアでサッチモら著名なミュージシャンの録音を数多く手がけてきた、あの伝説的大プロデューサー、ジョージ・アヴァキアンさんも大喜びしたほど。

瀬川さんは、「ジャズジャパン」誌(Vol.62)の特集の中で「(ルイは) 始めから(わざとこれを) やりたかったんじゃないのかなあ(笑)」と話しておられたが、確かにイタズラ好きのサッチモなら、やりそうなことですね。

### ミルス・ブラザースと歌った「林檎の樹の下で」懐かしい日本語の歌詞で外山さんが甦らせる

サッチモのポピュラーな顔の一つ「林檎の樹の下で」も

忘れてはなりません。サッチモとミルス・ブラザースのヤダヤダヤダと言うスキヤットも楽しい。瀬川さんは、これもこうジャズジャパン誌の中で強調されている。「僕にすれば『ジャズのスタンダード・シンギングの開祖はルイ・アームストロングだ』と唱えたい」と。SP復刻盤4枚組CDを企画発売したオーディオパ



サバオ渡辺さん(右)のお勧めで出演した「隠れジョージ・ベンソン」細野よしひこさん

ーク社の寺田繁社長が苦勞して探し出してきたミルス・ブラザースとサッチモと一緒に歌っている「林檎の樹の下で」も、この4枚組CDに納められたという。会場に来ていらした寺田社長もそんなエピソードを語る。外山さんもさっそくこの曲を取り上げた…が、この日は日本語に訳された歌詞で歌った。♪林檎の木の下で、明日また会いましょう、黄昏赤い夕陽、西に沈むころに…(柏木みのる訳詞)、皆

さんにも、お馴染みの懐かしい曲だったに違いありません。ほんのり笑顔がこぼれる。

ついでセインツの演奏は「レイジー・リバー」「セント・ジェームズ病院」、そしてディズニー映画ジャングル・ブックから、スキヤット満載の「人間のようになりたい」…粉川さん、広津さん、藤崎さんまで、いろいろな形のスキヤットを披露、お客様も巻き込んだスキヤットまで…熱演が続いて1部を終了。15分の休憩中、会場の隣のホールでワンドリンクサービスがあり、各種ソフトドリンクはもとより赤白ワ

インまで楽しむことが出来た。

「ジャズ博士」丸山繁雄さんが即興の特別講義！「隠れジョージ・ベンソン」だった細野よしひこさん

第2部は、日本のジャズ界を代表するスキヤット名人たちが次々に登場する。一番手はボーカリスト、丸山繁雄さん。ジャズで博士論文を書いたという“ジャズ博士”。日本大学芸術学部で教鞭をとる異色のモダンジャズ・ボーカリスト。カウント・ベーシーの「シャイニー・ストッキング」の熱唱に次いで、セロニアス・モンクの「ストレート・ノー・チェイサー」(水は入らないストレートでくれ!)で酔わせる。スキヤット論やスキヤットとインプロビゼーション(即興演奏)の違いについてのユーモラスな“特別

### 「ジャズ博士」丸山繁雄さんが即興の特別講義！「隠れジョージ・ベンソン」だった細野よしひこさん

講義」まで始める。しゃべり出すと止まらないそうです。お次は、丸山さんのバックでもずっと演奏していた細野

お次は、丸山さんのバックでもずっと演奏していた細野

お次は、丸山さんのバックでもずっと演奏していた細野

お次は、丸山さんのバックでもずっと演奏していた細野

よしひこさん(g,v.o)。ジョー・パス、サリナ・ジョーンズらとの共演などジャズ・ギターのパイオニア。その昔、日本テレビの「しゃぼん玉ホリデー」のエンディングテーマでもお馴染みの「スターダスト」の華麗なバース部分から演奏に入る。細野さんは、これがギターを好きになったきっかけという。そして“隠れジョージ・ベンソン”というか、彼のようにギターを弾きながらスキヤットを聴かせてくれる秘技。そんな秘技をドラムのサバオさんがかつて聴いたことがあって、「スキヤット特集なら細野さんをぜひ呼んであげてください」と外山さんに伝え、実現した。

細野さん、「実はこのスキヤット、打ち上げの時しかやっていないんです。こんな沢山のお客さんの前でやるのは初めてなんですよ」と言いながらも素晴らしいスキヤットを聴かせてくれた。細野さんはそのままステージに残って、引き続き長丁場の共演となる。

### お待たせの美人ボーカリスト、ギラ・ジルカさん 「高校の時“アームストロング賞”貰っているの」

はい、お待たせの美人ボーカリスト！ その卓越した歌唱力を誇るギラ・ジルカさん、バークリー音楽大学でマルサリス兄弟らと同級だったことなど、その輝かしい経歴などは、インターネット上にあふれているので、そちらにお任せするとして、この日、外山さんとおしゃべりで驚いたことの一つ。「私、高校の時、

ルイ・アームストロング賞を貰っているのよ、サクソフ吹いて…」ですって。外山さんと意気が合うわけです。「ハウ・ハイ・ザ・ムーン」「ワン・ノート・サンバ」「チーク・トゥ・チーク」(外山さんとセクシーに頬を寄せあったりして、危ないなあ…)と熱唱が続く(写真右上)。聞くとところによると、コーヒー店のスターバックスでは、何分間に1度は彼女の歌が流されるそう。私も1枚買ってサインして貰っちゃった。

ここで開場に来て下さった石井一さん(自治大臣など、衆参議両院で要職を歴任)がステージに呼ばれる(写真上)。石井さんはお父さんの廣治さんが日本マーキュリーレコードの社長だった1953年11月、ノーマ

ン・グランツ(米プロデューサー)率いるJATP(Jazz at the Philharmonic)のメンバー30人超が来日した際、18歳の高校3年生で羽田から銀座・日劇までのパレードの先頭車両クライスラーを運転している。これが日本にジャズの大ブームを巻き起こした。「沿道は切れ目なくファンで埋め尽くされていたのです」と語り、ロイ・エルドリッチ、ウィリー・スミス、エラ・フィッツジェラルド、ベニー・カーター、ジーン・クルーパー、オスカー・ピーターソン、レイ・ブラウン、ベン・ウェブスター…このときの来日豪華メンバーの名前を次々と挙げてみせる。「当時、私はサクソフを吹いていましたね…」、いやはや、この方も話し出すと、30分でも止まらなくなる。

### 由紀さおりさんの「夜明けのスキヤット」登場 銀座十字屋会長の中村千恵子さんが熱唱

日本でスキヤットと言えば思い出すのが、日本テレビ=読売テレビのイレブンPM！1965年から25年間、夜11時になると、パーサバダバ、ドゥーワー♪ とヒップなスキヤットのテーマが流れた。当然、ジャズ評論家でもあった大橋巨泉さんの卓越したセンスから生まれたテーマソングだ

ろう。当時「スキヤット」という呼び名では有名にはならなかったが、日本中知らぬ者のない“日本一有名なスキヤット”となった。ギラさんが、あの高音パートを担当しセインツのホーンセクションと共演、短いテーマが終わった後、テンポはデキシーブルース・テンポになり、サッチモ

がこの曲をやったら、という想定で会場を大いに沸かせた。

次のハイライト「夜明けのスキヤット」。そう、あの日本のスキヤットの代名詞ともいえる、由紀さおりさんの「夜明けのスキヤット」です。サッチモやジャズのスキヤットとは違いますが、

この曲のヒットで、スキヤットという言葉が日本中で有名になりましたね。歌うは、この会場、銀座十字屋会長の中村千恵子さん。彼女の澄んだボーカルは、まさにこの曲にぴったり。外山さんもこの企画を立てたとき、始めからこ



「夜明けのスキヤット」を熱唱する中村千恵子さん

のことを心に秘めていて、十字屋さんに共催を持ちかけた。中村さんも即、同意して下さったという。昨年3月28日、この会場でやはりWJF例会として『サッチモとポピュラーミュージックの世界』を開催し、大好評だったことも、記憶に新しかったのでしょう。元フジテレビのアナウンサー、中村江里子さんのお母さんですよ。

このとき、特別ゲストとして参加したNYCを中心にグローバルな活躍をしているダリル・シャーマンさん (p,vo) が外山さんに「このプログラムならマルサリスのリンカーンセンターバンドのように、そのまま全米の文化センターを回れますよ」と言ったが、今回の『春のシュビドゥバ』例会も、同様な素晴らしさだったに違いない。

フィナーレ前、エリントンの「スウィングしなけりや意味がない」では出演者全員がステージに上って熱演、外山さんはステージを下りて客席に回り♪デュワッ、デュワッ…とあちこちでお客さんをスキヤットに巻き込む。そのままフィナーレの「聖者の行進」へ。会場に傘が配られ、外山さんらのブラスグループにしたがって次々膨らんでいくセカンドラインが、会場全体を包み込んでいく(写真上)。最高の盛り上がりを見せて『春のシュビドゥバ』は締めくくられた。



お世話になった銀座十字屋ホールの森泰義さん(元スウィング・ジャーナル社編集部)は、ホールのHPにこのような讃辞を寄せて下さっている。ありがとうございます！

＜入口は簡単。一見簡単なようで、本当はやれと云われてもなかなか即興では難しいとされるスキヤットでも、「シュビドゥバ」と呟けば、気分はジャズ・ミュージシャン。誰もがこの日、ジャズって楽しいと思えたのではないだろうか。だが終わってから振り返ってみると、モダン・サイドの丸山とギラがあればほど楽しげにデキシードのステージ

に立っていること、外山のお内儀・恵子さんがモダン・ジャズのセロニアス・モンクの曲でピアノ伴奏していることなど、

有り得ない光景の連続で「凄いコンサートだったんだなあ」と身震いすると共に、改めてジャズという音楽の懐の深さを感じざるを得なかった。素人に太鼓判押されてもとは思いが、内容をアメリカ版にローカライズすれば、そのまま全米で通用するショーのレベルであると思えた。＞

お土産に配られた会員の水越有造さんご提供のサッチモ金太郎飴、特製サッチモメモ帳、サッチモ・コースター…お楽しみ下さい！ 皆さま、『春のシュビドゥバ』、本当にありがとうございました。

### あのマイルスも絶賛したサッチモの斬新なジャズ・スタイル…そして、あの“専売特許”

## 90年目のスキヤット特集——世界で唯一、そして画期的なコンサートだった

マイルス・デイビスはこう言っています。「ルイ・アームストロングが居なかったら、私達は何もできなかつたろう」と。1920年代のサッチモが編み出した斬新なジャズ・スタイル、画期的な演奏が白人、黒人を問わず、多くのミュージシャンに影響を与え、マイルス本人にまで繋がるジャズの歴史を生んだことを讃えた最大の賛辞です。

そしてルイの本当の偉大さは、その言葉が、ビング・クロスビーからエラ・フィッツジェラルド、サラ・ボーン、トニー・ベネット他、ジャズボーカルの世界にも当てはまるという事。“スウィングする”歌い方、斬新なジャズのセンス、“ジャズボーカル”と言う分野もサッチモと共に誕生したと言っても過言ではないのです。

しかも、ジャズボーカルの中でもルイ・アームストロングのこの上なくユニークな“専売特許”とも言えるスキヤット。初スキヤットが録音された1926年2月26日から90年、今回、銀座十字屋ホールさんのご協力ですべて実現しました。ご来場の皆様、ご出演して頂いたセイントツのメンバーの皆様、ゲスト出演の瀬川昌久先生、ギラ・ジルカさん、丸山繁雄さん、細野よしひこさんありがとうございました！！

WJF会員の佐藤修さん、山本俊兵さんのご厚意で、初スキヤット、「ヒービー・ジービーズ」の1926年当時の音を78回転SPレコードで楽しんでいただくこともできました。

お陰様で90年目のスキヤット特集として世界で唯一の、そして画期的なコンサートとなりました！！ (外山喜雄)

## 華やかに♪年の始めの…第8回『デキシーランド・ジャズ・ジャンボリー』

改築中の日比谷公会堂に代わって今年は「めぐろパーシモンホール」で満員御礼の開催



新春恒例の『デキシーランド・ジャズ・ジャンボリー』が1月9日(土)、めぐろパーシモンホール(東京・目黒区八雲)の大ホールで開催された。今回は数えて8回目。昨年まで毎年開催されていた日比谷公会堂が改装中のため、こちらに代わったが、これまた素晴らしいホールで、1200席は“満員御礼”となって埋め尽くされた。出演バンドは外山喜雄とデキシーセインツなど日本を代表するデキシー5バンド。そして、今年も世界的な名クラリネット奏者、北村英治さんをお迎えしての素晴らしいコンサートとなった。

### BJ5人による「世界は日の出～」で開幕 今年の全バンドの課題曲は「スワニー河」

午後3時開演、オープニングは新年にふさわしく全バンドのバンジョー奏者5人による幕の前での「世界は日の出を待っている」。幕が上ると全バンドの全員がステージを埋めていた。と、外山さんが中央に出てきて♪年のはじめの、ためしとて…と今年も「一月一日」を熱唱、新春を祝う。

バンドは有馬靖彦デキシージャイブ(since1974)を皮切りに、デキシーキャッスル(since1975)、中川喜弘とデキシーサミット with 中川英二郎(since1975)、続いてデキシーセインツ(since1975)。メンバーは外山喜雄(tp,vo)、恵子(p,bjo)、広津誠(cl)、粉川忠範(tb)、藤崎羊一(b)、サバオ渡辺(ds)のみなさん。後半、久々に鈴木孝二さん(cl)も加わった。曲は「ハイソサエティー」、「ウストエンド・ブルース」、今年の全バンドの課題曲となった「スワニー河」、「ディッパーマウス・ブルース」。

### 米寿を迎える北村英治さんも元気に熱演 34人全員出演！圧巻、最強のフルバンド

締めくくりは藪田憲一とデキシーキングス(since1960)。結成時からの歴史を見ると、どのバンドも40～50年超、

日本のデキシーの歴史を支えてきている。でも、この方にはかないません、北村英治さん。この4月1日(金)、サントリーホール大ホールで『米寿記念コンサート～一夜限り、クラリネットの祭典～』を開催。この日はデキシーキングスをバックに「プティット・フルール(小さい花)」をゆったりと演奏したあと、「年寄りなので、速い曲は演奏できないのだろうと思われてもいけませんので…」と、軽快な「シャイン」で飛ばす。

最後のステージは、再び出演者全員(何と34人!)による超豪華なビッグバンド。広津さんはテナーサクソ、鈴木さんはアルトサクソに持ち替えての熱演。指揮は中川さん。



。「ザッツ・ア・プレッティー」に次いで外山さんのボーカルを入れた「ホワット・ア・ワンダフル・ワールド(この素晴らしい世界)」、バンジョーのイントロでヒットチャートの頂点に立った「ハロー・ドーリー！」。もちろん全バンジョー奏者5人がこれを再現させ、ボーカルは FUMIKA。「シング・シング」では、ドラマーも全員が入れ替わり立ち替わりドラムソロを競演し、最高の盛り上がりを見せた。

フィナーレは定番の「聖者の行進」。ステージ左右からほぼ全員がステージを下りて客席を回り、笑顔でお客さんに手を振るなど、客席を巻き込んでの場内パレードの大フィーバーとなって幕を下ろした。



## 都立大駅前の和食店でささやかな“打ち上げ” 外山夫妻らも立ち寄って「毎年恒例なりそう」

ホワイエで販売された各バンドのCDなど、売れ行きも上々。恵子さんの初リーダーアルバム「世界は日の出を待っている」は売り切れ。「いつもの400%の売れ行きでした」と外山さん。終わって、ご夫妻と“販売員”は都立大駅前の和食店で“打ち上げ”をしていたら、何とデキシーキャッスルの山本勇(ds)らと鉢合わせ。みんな盛り上がった1日だったのでしょ。

(小泉良夫)



(写真上)出演者全員によるビッグバンド。そのまま全員がステージを下りて会場を回った(下段)

## 宇都宮「MIYA JAZZ INN 2015」 今回もジャズ、餃子、カクテルを堪能

### 気さくなジャズ仲間、飲み友だちとも再会 何ともいえない至福な一日が待っていた

またまた行ってきました『MIYA JAZZ INN 2015』(主催:ミヤ・ジャズ推進協議会)。何といっても“ジャズ、餃子、カクテル”と3拍子揃っているの



宇都宮行き。もちろん今回も外山喜雄とデキシーセインツが、フェスティバルの開会を告げるデキシーパレードの先頭に立ち、熱演を披露するのですから…。餃子を楽しみ、カクテルを味わい、ジャズに耳を傾ける…そんな至福な一日なのです。

お楽しみはもう一つ。もうずいぶんと長いお付き合いになってしまった“うつのみやジャズのまち委員会”会長、吉原郷之典さん夫妻や元宇都宮市教育委員長の藤原宏史さんから気さくなジャズ仲間、飲み仲間が待っていてくれること。お二方はよくWJFのイベントにも駆けつけて下さる。とくに吉原さんは「サッチモの旅」仲間

でもあり、リーダーを務めるSWINGING HERD ORCHS TRAのコンサートなどで寄付金を募り、WJFにずいぶんと寄贈もして下っている。

ちょっぴり掲載しそびれていましたが、開催は、昨年2015年10月31日、11月1日。パレードは31日午前10時25分、下之宮二荒山神社前をスタート、フリーマーケットのような賑



わいも見えるアーケードを通過してメイン会場のオリオンスクエアへ。開会セレモニーに続いて11時からコンサートのトップを飾る宇都宮市立姿川第一小学校吹奏楽部の演奏。「山寺の和尚さん」「ふるさと」などのあと「オペラ座の怪人」などのパフォーマンスを楽しませてくれた。

セインツは、今回は早々と11時40分から約40分間。「サウス・ランパート、ストリート・パレード」で開幕、「ハロー・ドリー！」「キャラバン」「セントルイス・ブルース」…恵子さんのバンジューをフィーチャーした「ワシントン広場の夜は更けて」「バイバイブルース」、フィナーレの「聖者の行進」はやはりみなさん大納得で聴き入っていた。

正午前に終わってしまい、さて…と言うところで、なんとこの年の「サッチモの旅」のみなさんがどっと押し寄せ、外山夫妻も交えての“同窓会”が近くの餃子店で開催された。10人を超えましたね。これだから宇都宮詣ではやめられません。また今年もよろしく！ 夕刻、吉原さんSWINGING HERD ORCHS TRAの公演、パスしてしまっ



## 年に1度のお姫様が主役 ♪きょうは楽しい銀座『ジャズひな祭り』 五人囃子も熱演！「外山恵子&JAZZ'n Babies」

春3月、もうすっかりお馴染みになった銀座『ジャズひな祭り』。今年も6日(日)午後2時から並木通り、数寄屋通り、コリドー街周辺のライブハウス、バーなど7会場で開催され、同5時15分まで計21ステージで熱演が繰り広げられた。我らのターゲットはもちろん「外山恵子&JAZZ'n Babies」。“恵子ファン”が近郷近在!?からも、和気あいあいとやってきて、2会場とも満員の盛況となった。今年も女房ともども出掛けていって…。 (小泉良夫)

### フォスターのメドレーなどバンジョーもたっぷり！ 何とんでも「ユア・マイ・サンシャイン」なのです

午後2時からの第1会場は銀座カレラ式番館地下2階の「シグナス」。1ドリンクを注文して“お姫さま”、恵子さん(p,bj)とお付きの“五人囃子”、外山喜雄(tp,vo)、広津誠(cl)、粉川忠範(tb)、藤崎羊一(b)、サバオ渡辺(ds)のみなさんの登場を待つ。

照れまくる恵子姫の挨拶で五人囃子の笛太鼓「ロゼッタ」が始まる。続くアイランド民謡の「ダニーボーイ」は粉川さんのトロンボーンが優しく伸びやかに語りかける。「ペニーズ・フロム・ヘブン」について恵子さんと藤崎さんのベースをフィーチャーした「ピーター・パンサー・パター」。恵子さんのリーダー・アルバムにも入っている、恵子さんの軽快なピアノと藤崎さんの豪快なベースが織りなしていく素晴らしいサウンド。

恵子さん、お待たせのバンジョーは「世界は日の出を待っている」に始まり、アメリカ民謡の父 スティーブン・C・フォスターから「金髪のジェニー」「ケンタッキーの我が家」「スワニー河」の3曲をメドレーで聴かせてくれた。フォスターの曲にはバンジョーがぴったりマッチするんですね。最後は「ユア



ー・マイ・サンシャイン」で締める。外山さんのボーカルが2回繰り返されて、会場にも合唱が広がる。

♪曇り空でも、太陽の輝きのように、あなたは私をハッピー

ーにしてくれる…そう、恵子さんに捧げたいような歌詞なんです。

### 粉川さんの秘技「セント・ジェームズ病院」では ベルを外して日本酒のワンカップをあてがい…

次の会場「BAR MUGEN」での演奏は午後4時半から。それまで1時間半も合間があったので、外国人観光客も目立

って多くなつた銀座通りをウィンドショッピングしながら散策。思わぬ掘り出し物を見つけたりして…。シグナスと同じ並木通りの BAR MUGEN は広々ゆつたりの素敵な雰囲気。とっても聴きやすい前の方に陣取ることができた。ここではまず、世界3大謝肉祭行事、ニューオリンズのマルディグラから「ダンス・アット・マルディグラ」でスタート。



黄色い矢印部分がベルを外したワンカップ

続く2曲目の「セント・ジェームズ病院」では、粉川さんがトロンボーンのベル(先端部分)を外して、その付け根部分に何やらコップのようなものをあてがい、トロンボーンとは思えない透き通った素敵なサウンドを奏でた。終わって粉川さんに伺った。

——あのウ、グラスをあてがったとおっしゃっていましたが、どんなグラスですか？



「ははは、日本酒ワンカップ大関の瓶ですよ」

——あの1合瓶の？

「いや、1合瓶はダメでした。それよりちょっと大き目の270ml入りが一番良かったんです。瓶の口がちょっぴりしぼまっているんです」。粉川さんはこの澄んだ音を求めて、いろいろ試されていたんですね。さすがプロ。私は帰りに近くのスーパーでこれを買って、聴き比べどころか飲み比べてみたりして、すっかり出来上がってしまいました。

### 「ナッシュビル」の秋本さんご一家もいらして 美緒ちゃん、8つのお誕生祝いをプレゼント

3曲目は「オール・オブ・ミー」。私のすべてはお前なんだよ。喜雄さんが「もちろんです」というように胸を叩く。恵子さんファンだって同じですよ。その後の「スターダスト」も良かったが、何と最前列にいた、可愛い女の子がこの日、誕生日ということでセイントは急きょ♪ハッピーバースデー…のお祝いソングをプレゼント。前日5日が誕生日だった外山さんも大喜びでお嬢さんの手を引きバンドともども会場を巡回した。



おめでとう！秋本美緒ちゃん、8つのお誕生日でした。

たまたま私は、この方々3人のお隣の席にいたので、ちょっぴりお話を伺った。

お嬢さんは秋本美緒ちゃん(8つ)。みなさんは何とあのライブハウス「ナッシュビル」の秋本さんご一家だった。お母さん、ご長男のお嫁さん、美緒ちゃんはそのお嬢さん。「ナッシュビル」は現役時代、私もずいぶんと楽しませていただいたし、「ジャズひな祭り」では、外山恵子&JAZZ'n Babiesも、ここに出演して、お世話になっていたはず。ジャズが結びつける素晴らしい絆を見させていただいた。外山夫妻も、親しく談笑していました。

最後は、エンディングにふさわしい「バイバイ・ブルース」。恵子さんのリーダーアルバムの聴かせどころだった名演奏が全員のボーカルもいれて、会場を魅了した。

いつものように中村宏さんご夫妻、磯野博子さん、サッチモの旅の同窓生、WJF会員のみなさんも、姿を見せていた。恵子リーダーのコンサート…春爛漫でした。

## 10周年を迎える「斑尾ジャズ」(WJFも支援しています)

夏の国内最大級の社会人バンド・ジャズ・フェスティバルとしてその存在感を示している「斑尾ジャズ」は今年10周年を迎えます。斑尾ニューポートジャズフェスティバルが13年前に終了後、斑尾にジャズの灯火を絶やすな、と実行委員長の新山敏さん(日本ルイ・アームストロング協会賛助会員)が中心となって、アマチュア中心のジャズ・フェスティバルとして再発足しました。それから10年、長野県斑尾高原で行われるこのジャズフェスは、今年の北陸新幹線開通に伴い、ジャズファンのエリアも広がって、盛り上がりを見せています。

日本ルイ・アームストロング協会も第1回目から協力させていただいており、会報編集長の山口義憲さんは、司会ですべて参加させていただいております。また、WJF例会などで会員のみなさんには、なじみのジャズ評論家、瀬川昌久さんも特別審査員として、ここ数年毎夏、斑尾ジャズに参加いただいております。

「斑尾ジャズ2016」は、今夏8月20日(土)、21日(日)の2日間にわたり斑尾高原で開催されます。ビッグバンドを中心としたメインステージとコンボの出演による斑尾高原ホテルのテラスステージでの、第2会場で演奏が楽しめます。

会場には、地元の食材を使用したフードのブースなどが出店され、高原の涼風のもと、ジャズとグルメとビール&ワインなどを味わう贅沢な時間を過ごすことができます。この夏、北陸新幹線で斑尾ジャズに行ってみてはいかがでしょうか。詳しくは斑尾ジャズホームページ:<http://www.madaraojazz.com/>をご参照ください。

中学生を感動の渦に巻き込んだ外山喜雄とデキシーセインツ  
**千葉・松戸市立松戸六実中学校で“ジャズ出前公演”**  
**「あの歴史的な紀尾井コンサートと同じ反応、興奮が生まれたんです」と外山さん**

昨年2015年最大のイベントともいえたの“クラシックの殿堂”紀尾井ホール(東京・千代田区紀尾井町)での同ホール初のジャズコンサート『ニューオリンズ・ジャズ素晴らしきサッチモの世界』(12月19日)の感動もさめやらない、2日後の21日、外山喜雄とデキシーセインツは、今度は、会場も、聴衆も、がらりと変わった、いつもとは雰囲気もまったく異なったシーンでの“ジャズ出前公演”へ出向いた。千葉・松戸市立松戸六実(むつみ)中学校(松戸市六高台)で開催された音楽鑑賞教室(PTA主催)である。「もう、紀尾井ホールと同じ反応、興奮が中学校の体育館でも生まれたんです」と大感激の外山さん。子供たちからも同様、感動、喜び、ハッピーな声が続々と寄せられた。

外山夫妻、いやミュージシャンにとっては“早朝”の午前9時半の開演。「ジャズはほとんど聴いたことがない」という生徒さん、保護者、先生方が固唾をのんで見守る中、「リパブリック賛歌」で幕開けした。初めて聞く曲名ですって? でも、あの♪オタマジャクシは蛙の子…といえば、知らない人はおりません。続いてディズニー・メドレー、「ハイ・ホー」(白雪姫)、「アンダー・ザ・シー」(リトル・マーメイド)、「レット・イット・ゴー」(アナと雪の女王)と来れば、もうみなさんノリノリ。セインツが23年間も、ディズニーランドに出演していたと聞いてみなさん、驚きのため息を漏らす。

「スイングしなけりゃ意味がない」「A列車で行こう」でスイング感あふれてくると、足を鳴らしてリズムをとる子供も。特にドラムのサバオさんがモチモチで、盛んに「サバオーッ! サバオーッ!」の声がかかる。常連のジャズ・ファンも顔負けしそう。そのサバオさんの嬉しそうな顔が目につく。「この素晴らしき世界」「世界は日の出を待っている」などが続き、学校の校歌までジャズ風に演奏されると、みなさん驚きと喜びが入り交じって大騒ぎ。ラスト2曲は「セカンドライン」と「聖者の行進」。とくにセカンドラインは、外山さんがあらかじめ譜面を送っていて、同校吹奏楽部の生徒さんも加わって、オーッ!のかけ声とともにセインツと共演、会場を行進するなど、熱いフィ

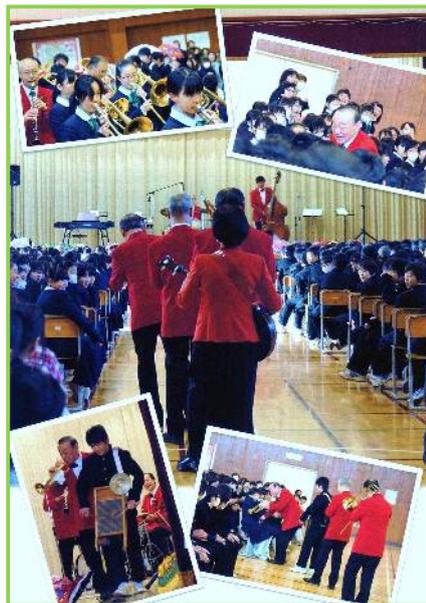


2015年12月21日(月)

ナーレとなった。あつという間の1時間半。みなさんからお礼の言葉を沢山いただきました。

宇都宮市のMIYA JAZZ INNでも、お世話になっている元同市教育委員長、藤原宏史さんのお嬢さん、初鹿香さんが、同校の美術の先生をされていて、同コンサートの写真を貼り合わせた素晴らしいコラージュを作成、後日、生徒さんや保護者の方々の声を綴ったメモとともに外山夫妻のもとに送り届けてくれた。この場を借りて、その一部をご紹介させて頂く(左と下の写真)。

そうそう、今回の会場が松戸市内だったので、常盤平でレストラン「アマポーラ」をひらいていらっしゃる佐藤友子さん、あのサッチモの素晴らしい写真を多数撮影されてきたジャズ写真家、故佐藤有三さんのご夫人が、お友だちからこのニュースを聞いて駆けつけて下さり、保護者とともに会場に入れて頂いた。ジャズの絆がここでも結ばれていった。



(記:小泉良夫)

以下、生徒さんからの一言(一部省略)。

「私は一番前にいて、ドラムのマネをしていたんですけど、自分がノリノリになったら、友達もノリノリになっていて、とても楽しかったです。自分達が、さばおーって声をかけたときとかも、やさしくたいおうしてくれてうれしかったです」

「私は吹奏楽部に所属していてコントラバスを演奏しています。いまは受験勉強のため仮引退していますが、高

校に入っても続けたいと思っています。みなさんの演奏を見て、その気持ちがあっと強くなりました。ありがとうございます」

「すごく楽しかった。校歌をジャズにしていたのが、いんしょうてきでした。私はtbをやっていて、すごく感動しました。外山さんに連れて行かれたけど、思い出になりました」

「サバオ、まこちゃん、ケイちゃん、よしお、ベースボール、ただくん ちゃんと思いで覚えています!!!!」

「私は、あまりジャズを聴いたことがなかったので、とても新鮮で楽しかったです。ディズニーの曲が好きでよく聞くのですが、ジャズで聞くと、今まで聞いていた曲と違うように聞こえました！いつも歌っている校歌も全く違う感じがしてとっても良かったです。学校で校歌を歌うときまた来て下さい」

「私はトロンボーンをやっていますが、トロンボーンの人音がすごくキレイで、高い音もすごく良くて感動しました！他の楽器もそれぞれソロがあって、どれもすごかった！今回は私たちが楽しめるように工夫して下さいのおかげで、良い思い出が出来ました」

「私はジャズをほとんど聴いたことがありませんでした。ですが今回の演奏を聴いて、とても良いものだということが分かりました！様々な日用品組み合わせ、楽器として利用したという話を聞き、とても興味を持ちました」

「もの凄くカッコよかったです。英語がうまくて歌もうまくて、とくにドラム！！私は吹奏楽部でパーカッションをやっていてあこがれていました。さばおさんカッコよかったです。最後まで演奏していた男子、私の後輩なんですけど、ものすごくうらやましいです。一緒に演奏したかったです」

「とってもカッコよかったです！みなさんととても明るくて、ディズニーメドレーがとてもお気に入りです。ソロパートもとてもビシッと決まっています、本当に感動しました！ジャズって本当に勝手に体が動く程、楽しいですね！中学生生活最後の冬に、素敵なプレ

ゼントありがとうございました！」

保護者のみなさんからも同様の感動と感謝の言葉が寄せられています。こちらこそありがとうございました。

## 生徒たちにも大人気の「セカンドライン」 新潟、長野での“出前公演”でも共演！

ニューオリンズプリザベーション・ホールの壁に、有名なリクエストの値段表がかかっています。昔、私たちが武者修行時代、聖者の行進が5ドル、トラディショナルな曲が2ドル、その他が1ドル。今は、それぞれ10ドル5ドル、2ドルに値上げされています(写真左)。

世界中どこへ行っても最もポピュラーな曲「聖者の行進」が10ドル、結構安いですよね(笑)。

今のニューオリンズの人々にポピュラーな曲というと、もちろんこの「聖者の行進」と「バーボン・ストリート・パレード」、そして、いまやダントツの人気なのが「セカンドライン」という、ジャズ葬式の帰りのパレードから有名になった曲。この曲が、私達の学校出前コンサートや、ジャズ・フェスティバルでの子供たちのブラスバンドとの共演で、大人気になっています。

ロックンロールの全盛時代に流行った「ロック・アラウンド・ザ・クロック」に似た♪ドミソ・ドミソ・ドミソ・ドミソ、ファラド、ファラド……という単純なメロディーですので、学校のブラスバンドにこの曲の簡単な譜面を送っておいて、当日合わせてみたら、思いついたのが7、8年前。なんと、子供たちは大喜びで、当日までに譜面も暗譜し、ほとんどリハなしでも本番で私達と一緒に舞台から降りてパレードすることもできたのです。

以来、学校出前コンサート、ジャズ祭、ジャズコンサートで、小学校、中学校、高校のバンドと共演が増え、子供達とのセカンドラインの共演と客席パレードが大人気になっています。つい最近1月に出演した新潟県燕三条のコンサートや、昨年5月の長野門前ジャズ・ストリートでも。共演した生徒たち、学校、主催者、観客の皆さんに大変感動して頂き、また是非来年もと言う話が増えています。

ニューオリンズで楽器が買えない人たちが、周りの日用品を楽器代わりにした。そんな‘楽器’の代表、ブリキの洗濯板、ウォッシュボードを生徒に持たせたら、もうすっかり乗りまくって！ そんな楽しい子供達とのジャズ共演に、生徒も先生も、観客の皆さんも私達も癒されています。

(記 外山喜雄)

(最終ページにも“ジャズ出前公演”関連写真を掲載)



こちらは、外山夫妻の地元、浦安市立見明川中での出前公演  
＝2014年1月22日(写真は同校提供)

ご寄付と嬉しいお手紙  
ありがとうございます

◆中村義孝様、喜世子様(会員、岩手県) 2万6000円

千葉・東金市での「ディナーショー」にも出前  
素敵なサッチモの鉛筆画が届けられました

昨年12月26日の千葉・東金市の蓬莱閣ライブ「一日遅れのクリスマスディナーショー」(中国料理フルコースと烏龍茶付き)にお世話頂いた方から翌日、素敵なお礼のメールを頂いた。そこにはサッチモを描いた鉛筆画を添えて下さっていた。これもまた不思議なご縁ですね。

(外山喜雄・恵子)

＜昨日のjazz timeは最高でした。デキシーの、のりの良さを楽しませていただきました。会長(鈴木康道)や参加者がとても感激して、来年も外山さんをお願いしようということで、“一年先のクリスマス”よろしくお願ひします。

私も家族全員楽しみました。スイングしなげりや意味がない、会員・家族プラス思考でスイングします。見ているのも楽しいですがやっている方がもっと楽しいと思います。すてきなご夫妻、バンドメンバーいいですね。



20年以上続く、年3回のライブが終了してすぐ、来年の出演をお願いしたのは初めてです。

サッチモ大好きで、10年前にレコードジャケットから鉛筆画を描きました、この笑顔を見ているとつまらないことを忘れさせてくれます。ホテルのライブにも行ってみたいです。ありがとうございました。

—28年前設立の東金文化会館協賛事業団体  
ネーブル会 片岡克巳様より

今年は、ジャズ・フェスティバルで人気です！

- 5月14日 新宿ジャズ・フェスティバル 新宿楽しい春のジャズ祭り
- 5月28日 長野門前ジャズ・ストリート
- 7月30日 軽井沢ジャズフェス(at 軽井沢大賀ホール)
- 7月31日 横濱旭区ジャズ祭
- 8月24、25日 浅草ニューオリンズ・ジャズ祭 ゲスト出演
- 10月中旬 横濱ジャズプロムナード
- 11月5日 宇都宮ミヤジャズイン
- 11月23日 吉原郷之典さんのビッグバンド・コンサート  
スウィングインハード orch ゲスト(at 宇都宮)
- 5月から8月 横濱ちぐさ会主催、外山喜雄、恵子  
夫婦でジャズ50年、4回シリーズ
- 7月2日 日本ルイ・アームストロング協会主催  
「サッチモは世界を廻る」完全字幕版上映と、  
外山喜雄、恵子 夫婦でジャズ50年お礼の会(at アテネフランセ)



(写真上)長野門前ジャズ・ストリート (下)宇都宮市立田原西小学校

募集中

♪ジャズを愛する皆様

どうか会員になって下さい！！

また皆様のお知り合いの方々に

ぜひ、WJFへのご入会をお勧め下さい

＝WJF年会費＝

- 一般会員(General Membership) ¥6,000
- 学生会員(Student Membership) ¥3,000
- 賛助会員(Friends of Louis Armstrong) ¥12,000

■会費のお振込み先■

郵便振替 00110-4-415986

ワンダフルワールド・J・F

銀行振込 三菱東京UFJ銀行浦安駅前支店

普通:5175119“ワンダフルワールド”

お問い合わせは:WJF事務局

TEL: 047-351-4464

Fax : 047-355-1004

Email:saints@js9.so-net.ne.jp

日本ルイ・アームストロング協会HP

検索エンジン:Yahoo,Googleで

<検索>ルイ・アームストロング

<http://members3.jcom.home.ne.jp/wjf>

編集長から

スキヤット誕生90周年。如月の銀座で昼下がり、十字屋ホールで開催された「春のシニイドウバ」は楽しいコンサートでした。▼日本ルイ・アームストロング協会の実力が遺憾なく発揮されたライブイベントで、ジャズ界の2・26事件をモチーフとした企画構成は、「ヒーロー・ジュービーズ」の歴史的シーンの再現をライブで実現、外山コレクションからの厳選スキヤット動画上映、WJF会員提供の約1000年前の蓄音機と90年前のSPレコードによる1世紀前の音の再現。▼そして、多彩なゲスト、丸山繁雄、細野よしひこ、ギラ・シルカ、中村千恵子のみなさんによる競演ライブでは、名人・真打ちのスキヤット・ボーカルに、アカデミックな瀬川昌久先生と丸山ジャズ博士の解説も付いて、スキヤット・ボーカルの世界を堪能。まさにWJFならではのワンダフルな世界でした。▼7月2日(土)、新装なった御茶ノ水アテネフランセでの第60回例会(久しぶりですね)が楽しみです。(山)